

# 病院病理部

## 1 構成員

	平成17年3月31日現在
教授	0人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	1人（1人）
医員	1人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	1人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	4人

## 2 教官の異動状況

三浦 克敏（助教授，部長）（H5. 8. 1～現職）

井出 良浩（助手）（H16. 9. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成16年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（1編）
そのインパクトファクターの合計	12.35
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	4編（1編）
そのインパクトファクターの合計	2.67

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Han GP, Miura K, Ide Y, Tsutsui Y. Genetic analysis of JC virus and BK virus from a patient with progressive multifocal leukoencephalopathy with hyper IgM syndrome. J Med Virol. 76 (3) : 398-405, 2005

2. Miura K, Han G, Kondo S, Ohhashi H, Tsutsui Y. : Phosphoglyceride (PG) crystal deposition disease : a novel acquired disease in which PG crystals are deposited in injured soft tissue and bone with phospholipid metabolism disturbance. *Pathol Int.* 54(12) : 881-9, 2004

インパクトファクターの小計 [3.53]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Ishikawa J, Taniguchi T, Higashi H, Miura K, Suzuki K, Takeshita A, Maekawa M.  
High lactate dehydrogenase isoenzyme 1 in a patient with malignant germ cell tumor is attributable to aberrant methylation of the LDHA gene. *Clin Chem.* 50(10) : 1826-8, 2004
2. Suzuki K, Funai K, Shundo Y, Asano K, Takamochi K, Asai K, Kazui T, Miura K. [Extrapleural pneumonectomy after hyperthermo-chemotherapy for the lung cancer patients with malignant pleural effusion] *Kyobu Geka.* 57(11) : 1023-7, 2004

インパクトファクターの小計 [5.54]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kobayashi T, Kawahara T, Nishizawa K, Ogura K, Mitsumori K, Ide Y.  
Volume-adjusted prostate-specific antigen (PSA) variables in detecting impalpable prostate cancer in men with PSA levels of 2-4 ng/mL : transabdominal measurement makes a significant contribution. *BJU Int.* 95(9) : 1245-8, 2005
2. Kobayashi T, Kamoto T, Nishizawa K, Mitsumori K, Ogura K, Ide Y. Prostate-specific antigen (PSA) complexed to alpha1-antichymotrypsin improves prostate cancer detection using total PSA in Japanese patients with total PSA levels of 2.0-4.0 ng/mL. *BJU Int.* 95(6) : 761-5, 2005

インパクトファクターの小計 [3.28]

(5) 症例報告

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Takayama T, Miura K, Han G, Ushiyama T, Suzuki K, Fujita K. : BK virus subtype 1 infection associated with tubulointerstitial nephritis in a renal allograft recipient. *Int J Urol.* Aug; 11(8) : 656-62, 2004
2. Kobayashi T, Uenoyama S, Miura K, Takehara Y. : Huge endocrine tumor of the pancreas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg.* 11(1) : 73-6, 2004

インパクトファクターの小計 [0.68]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kobayashi T, Iwai A, Takahashi R, Ide Y, Nishizawa K, Mitsumori K. Spontaneous rupture

of adrenal pheochromocytoma : review and analysis of prognostic factors. J Surg Oncol. Apr1; 90(1) : 31-5, 2005

2. 術前診断しえた膵管内乳頭粘液性腫瘍由来の粘液癌を主体とした浸潤癌の1例。笹田雄三 菊山正隆 岩本 諭 芳澤 社 金子 猛 井出良浩 小澤享史 小林良正：膵臓 20; 1 : 31-38, 2005

インパクトファクターの小計 [1.99]

#### 4 特許等の出願状況

	平成16年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成16年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	2件 (420万円)

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	2件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	2件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

##### (2) 国内学会の開催・参加

###### 1) 主催した学会名

静岡県病理医会 2004年3月及び9月 浜松

###### 2) 学会における特別講演・招待講演

乳癌の病理学 Part2, 第3回乳腺画像部会研究会 平成16年7月富士宮

乳癌の病理, PART3, 第33回超音波部会研修会, 第4回乳腺画像部会研修会, 平成17年2月静岡

4) 座長をした学会名

三浦克敏 第204回静岡県病理医会 2004年3月 浜松  
井出良浩 第206回静岡県病理医会 2004年9月 浜松

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成16年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	6件

(2) 国内共同研究

アミロイドの病理診断につき、国内の施設よりコンサルトを受けている。藤田保健衛生大学、聖隷浜松病院、岩手医科大学と共同研究をおこなっている。南生協病院の棚橋千里先生からは108歳の老人性アミロイド症の症例につき、共同研究を行い、病理と臨床22：11；1211-1215, 2004に症例発表をおこなった。

名古屋市立大学第二病理教室と化生性胸腺腫について共同研究をおこない、平成17年第94回日本病理学会総会で発表をおこなった。

東京の城南病理と静岡県病理医会との合同検討会を毎年1回交互に開催している。

(3) 学内共同研究

泌尿器科と検査部とで移植腎におけるBKウイルスの関与について共同研究を行い、高山らと共にInt J Urol. 2004 Aug;11 (8)：656-62. に発表した。

泌尿器科と共に再燃前立腺癌に対する化学療法について静岡前立腺癌研究会グループをつくり、多施設が参加した共同研究をおこなっている。病理部門を担当し、全例の病理再診断をおこなっている。

第一外科とは肺がんや悪性中皮腫などの温熱化学療法における治療前後の組織変化の評価をおこなっている。

外科と放射線科との乳癌カンファレンスを毎月1回おこなっている。

脳外科とは東海脳腫瘍病理検討会や静岡神経病理研究会に共同で参加、発表をおこなっている。

整形外科とは東海骨軟部研究会、静岡骨軟部研究会に共同で参加、発表をおこなっている。

10 産学共同研究

	平成16年度
産学共同研究	1件

### 1. 浜松ホトニクスとデジタル顕微鏡の開発と応用に関する研究

浜松ホトニクスと共同で開発したデジタル顕微鏡を用いて病理組織実習を一部の学生教育に試行しているが、学生からの評価は高い。できるだけ広くデジタル顕微鏡を教育の場に用い、顕微鏡に依存することなく、いつでも、どこでも、だれでもが、顕微鏡画像にアクセスでき、病理像の理解に努めている。

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 中国からの留学生である韓桂萍がJ Med Virol. 2005 Jul; 76 (3) : 398-405. に進行性多巣性白質脳症についての研究論文を報告した。

### 2. C型肝炎ウイルス (HCV) 非構造蛋白質NS5Aの機能解析 (井出)

HCV感染症におけるインターフェロン (IFN) 治療において、HCVの非構造蛋白質NS5AはINFの感受性に影響を与えることが示されており、細胞因子との相互作用が注目されている。IFN刺激後にNS5Aとの結合を示す新たな細胞性キナーゼを培養細胞中に見出したので、この遺伝子のクローニングと機能解析により、NS5Aが宿主細胞内のシグナル伝達系におよぼす影響や、IFN治療にNS5Aがどのように関わっているか解析している。

3. グリセロリン脂質結晶沈着症 (Phosphoglyceride crystal deposition disease) は今までに世界に報告例が3例あるのみで、我々の施設と国立がんセンターや北里大学、静岡済生会病院からのコンサルト症例6例をまとめてPathol Int. 2004 Dec; 54 (12) : 881-9. に報告をおこなった。軟部や骨にグリセロリン脂質結晶が沈着し、組織を破壊する新しい沈着症である。今後さらに症例の収集が期待される。

## 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. グリセロリン脂質結晶沈着症については他に研究機関はなく、我々の施設のみで、分析が可能である。国際誌に発表したことで、他の施設からのコンサルト症例が集まれば、さらなる研究が期待できる。

2. アミロイド症については症例の分類を問い合わせられるコンサルトが国内の施設から多く寄せられている。現在各アミロイド症ごとに新しい治療法が開発されている状況であり、患者の治療法の選択に関わる重要な情報を提供してきている。アミロイドに関する染色法についても問い合わせが多く、国内の多施設にフェノールコンゴレッドの普及を努めている。